

施肥の違いが香りシクラメン「はる香ミディ」の生育に及ぼす影響

岡澤立夫・山本陽平

(園芸技術科)

【要 約】香りシクラメン「はる香ミディ」は、既存の「おだや香」と同様、多肥料で葉枚数、株張ともに減少するとともに、芽枯れが増加する。元肥は標準の半分程度で十分である。

【目 的】

香りシクラメン「おだや香」と「さわや香ミディ」は、栽培マニュアルがすでに作成されているが、前者に続いて育成された覆輪フリンジ系「はる香ミディ」には栽培マニュアルが存在しない。しかしながら、瑞穂町では「はる香ミディ」を東京オリジナル品種として大きく取り上げる動きがでており、施肥管理技術に対する要望が高い。そこで、施肥の違いが香りシクラメン「はる香ミディ」の生育に及ぼす影響を明らかにする。

【方 法】

2019年4月24日に128穴セルトレイ苗（「おだや香（参考品種）」、「はる香ミディ」）を10.5cmポリポットに鉢上げした。鉢上げ用土は試験場標準の赤土：無調整ピートモス；腐葉土＝5：3：2とし、試験区を施肥の違いから表1のとおり6区設定した（各試験区10株）。いずれの試験区も追肥として、ハイポネックス（N：P₂O₅：K₂O＝20：20：20）1000倍を5月8日から週1回、固形肥料のプロミックス中粒を5月29日と7月24日の2回施用した。6月28日に5号鉢へ鉢替えした（標準用土にココピートを全量に対し30%添加）。生育および芽枯れ率の調査は2019年10月1日に実施した。

【成果の概要】

1. 「おだや香」, 「はる香ミディ」のいずれにおいても、株張、株高、葉枚数は、元肥量を半減した1区、2区で多く、倍増した5区、6区で少なかった（表2, 図1）。標準の3区、4区ではその中間を示した。固形肥料の影響は少なかったが、同じ元肥間で比較すると有意差はないが固形肥料施用で株張、株高、葉枚数ともにわずかに低下した。また、肥料が多くなるにつれ、枯死する株が増え、調査可能な株数は減少した。SPAD値は「おだや香」では試験区間で違いは見られなかったが、「はる香ミディ」では多肥で高い傾向にあった。
2. 「おだや香」は、肥料が多いほど、芽枯れが生じた（表3）。一方、「はる香ミディ」では、施肥量にかかわらず、いずれの区においても芽枯れは生じた。「おだや香」よりも芽枯れが生じやすい品種であることが示唆された。「はる香ミディ」では、「おだや香」同様、肥料が多いほど芽枯れ率は高かったが、2区で最も少なくなった。
3. 以上の結果から、「はる香ミディ」の栽培において、葉枚数が確保でき、芽枯れが少ない条件である元肥半減区が最適であった。

【残された課題・成果の活用・留意点】

1. 12月以降の開花への影響についても調査する必要がある。
2. 「はる香ミディ」の特に多肥区で芽枯れ症状が多くみられた。高温期以降に発生が見られたことから、来年度は、高温の影響についても調査する。

表1 試験区の設定

試験区	元肥量 の設定	元肥の種類・量		追肥の種類・量		施用量（1鉢当たり） ^a		
		エコロング 14-11-13	マグアンプK 6-40-6	ハイボネックス 20-20-20	プロミックス 6-9-9	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
1区	半減	1g/L	1g/L	1000倍	—	0.74	1.19	0.71
2区		1g/L	1g/L	1000倍	1.5g	0.83	1.32	0.84
3区	標準	2g/L	2g/L	1000倍	—	1.05	1.95	0.99
4区		2g/L	2g/L	1000倍	1.5g	1.14	2.09	1.13
5区	倍増	4g/L	4g/L	1000倍	—	1.68	3.48	1.56
6区		4g/L	4g/L	1000倍	1.5g	1.77	3.62	1.70

注1) —：未施用

a) 施肥量は4月24日～10月1日まで

表2 施肥の違いが生育特性に及ぼす影響

品種名	試験区	調査数 ^a (株)	株張 (cm)	株高 (cm)	葉枚数 (枚)	SPAD
おだや香	1区	10	29.8 a	14.8 a	108.8 a	52.0 a
	2区	9	25.9 ab	13.0 ab	97.6 a	49.7 a
	3区	9	25.6 ab	11.3 b	57.9 bc	50.7 a
	4区	9	24.2 b	11.6 b	56.8 bc	55.9 a
	5区	7	22.5 b	10.0 c	40.9 c	54.2 a
	6区	6	21.3 b	10.0 c	44.8 c	49.6 a
はる香 ミディ	1区	7	23.9 a	10.3 ab	44.6 ab	51.9 b
	2区	9	23.8 a	11.6 a	50.1 a	54.1 ab
	3区	9	24.1 a	11.3 a	45.9 ab	56.2 ab
	4区	9	22.2 ab	10.5 ab	36.6 bc	51.4 b
	5区	3	20.2 ab	9.0 ab	22.7 c	57.9 ab
	6区	5	19.3 b	8.6 b	16.8 c	61.3 a

注) 表中の同じ英文字間に Tukey 法により 5%水準で有意差がない。

a) 供試数 10 株のうち、調査可能な株数



図1 「はる香ミディ」の各試験区における外観の違い

注) 左から、1区、2区、3区、4区、5区、6区

表3 施肥の違いが芽枯れ率に及ぼす影響

品種名	試験区					
	1区	2区	3区	4区	5区	6区
おだや香	0	20	60	70	70	80
はる香ミディ	50	30	70	100	100	100

注) 芽枯れ部分が球根上に1か所でもあれば芽枯れ株とし、芽枯れ率(%)を算出